

目 次

I 法人の概要	1
1. 基本情報.....	1
2. 創学の精神.....	1
3. 大学の理念.....	1
4. 学校法人の沿革.....	1
5. 学校・学部・学科等	2
6. 学校・学部・学科等の学生数.....	2
7. 収容定員充足率.....	3
8. 役員の概要	3
9. 評議員の概要	4
10. 教職員の概要	4
II 事業の概要等	5
1. 教育に関する計画	11
2. 研究に関する計画	12
3. 学生支援に関する計画.....	13
4. 学生募集に関する計画.....	17
5. キャンパス整備及び施設・設備に関する計画	18
6. 社会連携事業に関する計画	19
7. 広報活動に関する計画.....	20
8. 自己点検・評価に関する計画.....	21
9. 管理・運営・財政基盤強化に関する計画.....	21
III 財務の概要	23
1. 事業の予算執行.....	23
2. 法人会計決算	23
3. 財務運営の状況.....	31
4. 経営上の成果と課題、今後の対応方策	39

I 法人の概要

1. 基本情報

法人名称 : 学校法人神戸薬科大学
主たる事務所の住所 : 兵庫県神戸市東灘区本山北町4丁目19番1号
電話番号 : 078-453-0031
FAX番号 : 078-441-7506
ホームページアドレス : <https://www.kobepharma-u.ac.jp/>

2. 創学の精神

科学的素養を身につけ、社会に貢献できる女子を育成し、
薬剤師資格を得て社会で女子が自立できることを目的とする。

3. 大学の理念

社会に大きく開かれた大学であることを意識し、
創立以来の伝統である教育と研究の両立を基盤としながら、
医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、
高度な薬学の知識を身につけた薬剤師、
並びに教育・研究者を養成すること、
さらに地域の医療と環境問題に目を向けて
健康の維持・増進にも貢献できる拠点となること

4. 学校法人の沿革

1930（昭和5）年4月5日 武庫郡魚崎町に「神戸女子薬学校」として開校
1932（昭和7）年4月1日 専門学校令による「神戸女子薬学専門学校」設立
（認可S7年3月29日）（財団法人認可S7年3月29日）
1932（昭和7）年4月27日 神戸市灘区原田に開校（4月27日創立記念日）
1935（昭和10）年4月1日 現在地に移転（本館・実験室1棟・寄宿舎北寮竣工）
1949（昭和24）年4月1日 学制改革により「神戸女子薬科大学」設置
（認可S24年2月21日）
1951（昭和26）年3月5日 財団法人神戸薬科大学の組織変更
学校法人神戸薬科大学設立認可
1965（昭和40）年4月1日 薬学科（既設）に併せて衛生薬学科を増設
（認可S40年1月19日）
1967（昭和42）年4月1日 大学院博士前期（修士）課程開設（認可S42年3月29日）
1979（昭和54）年4月1日 大学院博士後期課程増設（認可S54年3月30日）
1994（平成6）年4月1日 大学名称変更「神戸薬科大学」・男女共学となる
（認可H5年8月24日）
1996（平成8）年6月1日 医療薬学総合研修センター開設
1998（平成10）年11月30日 西宮グラウンド開設
2000（平成12）年8月31日 10号館（神戸薬科大学ライフサイエンスセンター）竣工

- 2002（平成14）年 4月 1日 大学院医療薬科学専攻修士課程開設
（認可H13年12月20日）
- 2005（平成17）年 4月 1日 収容定員増学則変更（認可H16年9月30日）
- 2006（平成18）年 4月 1日 学部6年制教育開始・収容定員増学則変更
（認可H17年9月30日）
- 2006（平成18）年10月 1日 薬学基礎教育センター開設
- 2007（平成19）年 6月20日 薬剤師認定制度認証機構から「生涯研修プロバイダー」
として認証 エクステンションセンター開設
- 2008（平成20）年 2月29日 11号館開設（薬学臨床教育センター）竣工
- 2008（平成20）年11月25日 学生支援センター設置（3号館改修）
- 2009（平成21）年 4月 1日 （財）大学基準協会の大学基準による大学評価
（機関別認証評価）認定
（認定期間は、H21年4月1日～H28年3月31日の7年間）
- 2010（平成22）年 4月 1日 大学院薬科学専攻修士課程開設（認可H22年9月30日）
- 2010（平成22）年10月28日 六甲キャンパス校地校舎取得
- 2012（平成24）年 4月 1日 大学院薬学専攻博士課程開設（認可H23年9月26日）
- 2013（平成25）年 3月 1日 80周年記念館（6号館）竣工
- 2016（平成28）年 4月 1日 （公財）大学基準協会による大学評価（機関別認証評価）
認定（認定期間は、H28年4月1日～H35年3月31日の7年間）
- 2017（平成29）年 2月 1日 8号館（研究棟）竣工
- 2017（平成29）年 3月31日 （一般）薬学教育評価機構による薬学教育評価
（専門分野別評価）認定
- 2017（平成29）年 9月 1日 地域連携サテライトセンター竣工
- 2017（平成29）年12月15日 薬剤師認定制度認証機構から
「健康食品領域研修認定薬剤師制度」の実施機関として
認証

5. 学校・学部・学科等

設置する学校	学部・学科等
神戸薬科大学	薬学部（薬学科）
神戸薬科大学大学院	薬学研究科（薬学専攻、薬科学専攻）

6. 学校・学部・学科等の学生数【2020年5月1日現在】

（学部）

区分	年次	定員	現員	男（比率）	女（比率）
薬学部 薬学科	1年次生	270	288	101（35.0%）	187（65.0%）
	2年次生	270	314	82（26.1%）	232（73.9%）
	3年次生	270	257	70（27.2%）	187（72.8%）
	4年次生	270	295	92（31.2%）	203（68.8%）
	5年次生	270	248	67（27.0%）	181（63.0%）
	6年次生	270	274	90（32.8%）	184（67.2%）
	計	1,620	1,676	502（30.0%）	1,174（70.0%）

(大学院)

区分		年次	定員	現員	男 (比率)	女 (比率)
薬学 研究科	修士課程	1年次生	5	0	0 (0%)	0 (0%)
		2年次生	5	1	0 (0%)	1 (100%)
	博士課程	1年次生	3	6	3 (50.0%)	3 (50.0%)
		2年次生	3	6	4 (66.7%)	2 (33.3%)
		3年次生	3	4	3 (75.0%)	1 (25.0%)
		4年次生	3	1	1 (100%)	0 (0%)
計			22	18	11 (61.1%)	7 (38.9%)

7. 収容定員充足率

学校名	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
神戸薬科大学	107.0%	108.5%	105.9%	105.8%	103.4%

8. 役員の概要【2020年6月1日現在】

理事定数 8~12名 <実数 11名>、監事 2名

役職	氏名	就任年月日	常勤・ 非常勤の別	業務執行・ 非業務執行の別
理事長	宮武 健次郎	2014年6月1日	非常勤	業務執行
理事(学長)	宮田 興子	2016年4月1日	常勤	職員
理事	金子 正	2016年6月1日	非常勤	非業務執行
理事	五代 友和	2018年6月1日	非常勤	非業務執行
理事	中山 尋量	2009年4月1日	常勤	職員
理事	岡田 功	2020年4月1日	常勤	職員
理事	北川 裕之	2014年4月1日	常勤	職員
理事	向 高弘	2018年4月1日	常勤	職員
理事	植野 光信	2018年6月1日	非常勤	非業務執行
理事	赤松 路子	2018年6月1日	非常勤	非業務執行
理事	韓 秀妃	2019年4月1日	非常勤	非業務執行
監事	栗原 信邦	2016年6月1日	非常勤	非業務執行
監事	古谷 泰治	2018年6月1日	非常勤	非業務執行

役員賠償責任保険契約の状況

加入責任期間 2020年4月1日~2021年4月1日
 被保険者 理事・監事、評議員、退任役員
 支払限度額 300,000千円

9. 評議員の概要【2020年6月1日現在】

定数 18～32名 <実数 25名>

氏名	就任年月日	氏名	就任年月日
中山 尋量	2010年 4月 1日	金子 正	2006年 6月 1日
江本 憲昭	2016年 5月27日	五代 友和	2016年 6月 1日
岡田 功	2018年 4月 1日	土屋 裕弘	2018年 6月 1日
中山 隆博	2016年 5月27日	橋田 充	2018年 6月 1日
加島 進	2018年 4月 1日	井出 徳子	2017年 5月30日
上田 昌史	2018年 4月 1日	津田 奈津子	2018年 9月19日
柳川 貴志	2018年 4月 1日	野町 佳弘	2019年 5月28日
田中 良子	2006年 6月 1日	松川 美佐子	2020年 5月28日
竹内 敦子	2018年 6月 1日	家次 恒	2002年 6月 1日
山野 由美子	2018年 6月 1日	小野 昭夫	2002年 6月 1日
杉田 みどり	2018年 6月 1日	西田 英之	2010年 6月 1日
宮崎 智子	2018年 6月 1日	藤本 孝明	2016年10月28日
辻井 理津子	2019年 5月28日		

10. 教職員の概要【2020年5月1日現在】

教育職員 88名 (平均年齢：49.39歳)				
教授 34名	准教授 15名	講師 24名	助教 12名	助手 3名

※学長・副学長は教授に含む

※特任助教は助教に含む

事務職員等 44名 (平均年齢：47.14歳)					
所属部署		事務系	技術系	兼任	計
事務局	総務課	7			7
	施設課	5	1		6
	経理課	4			4
	企画・広報課	5			5
学生支援センター	教務課	6			6
	学生課	4			4
	キャリア支援課	3		(1)	3(1)
入試部	入試課	4			4
図書館	図書館課	1			1
薬用植物園	薬用植物園課		1		1
情報支援室		2			2
内部監査室		1		(2)	1(2)
計		42	2	(3)	44(3)

※事務局長は総務課に含む

※企画・広報課（事務系）のうち、1名は非常勤職員

※内部監査室（兼任）のうち、1名は教員

Ⅱ 事業の概要等

理事長 宮武 健次郎

学長 宮田 興子

宮田興子学長が2019年4月に就任し、創立100周年を迎える2032年を見据え、魅力的な大学（学生にとっては学びがいのある大学、職員においては生きがい、働きがいのある大学）を目指すため、本学の基本的な方向性を示す新たな「第2期中期計画（2019～2021年度）」を策定した。中期計画に示す期間は学長の在任期間に合わせ3年間（2019～2021年度）とし、これらの実行のために5つの重点項目を定めた。

【重点項目】

1. 大学のガバナンス改革の推進
2. 学生募集の強化と入試広報の積極的展開
3. 社会連携の推進
4. 大学のビジョン及びキャンパス整備計画の策定
5. IR（Institutional Research）を用いた教育改革とブランド構築

「神戸薬科大学マネジメント改革」をスローガンに掲げ、「創学の精神」「大学の理念」を基盤に、教職学協働により本学を構成するメンバー全員が主体的に考え、議論し、決定するシステムを構築させるとともに、各事業においてPDCAサイクルを展開させることを明確にした。

初年度の2019年度は「質の高い教育を保証する教学マネジメントの構築」に注力した。具体的には、拡大教学マネジメント会議を毎月開催し、教育支援体制の強化（総合教育研究センターの創設）及び改正カリキュラムの検討を行うとともに、教育職員評価制度を導入し2020年度からトライアル運用を開始した。また、「効率的な研究マネジメントの構築」では、学長裁量経費を活用した学内共同研究を神戸大学大学院医学研究科との共同研究も含めてさらに発展させた。施設・設備においては1号館で残存が判明したアスベストの撤去を実施し、女子学生寮においてはカビが発生したため、除湿機を全室に配置する等カビ対策を行った。改定私立学校法において役員の責任の明確化及び監事の機能の充実等、私立大学のガバナンスの改善・強化がますます求められている。改正寄附行為を作成し、2020年4月1日に施行した。

2年目にあたる2020年度は、世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の対応に全力をあげる1年となった。4月7日に初の緊急事態宣言が7都府県に発出されることとなり、4～5月の通常の講義の実施を断念し、休校措置を5月31日まで延長することを決断した。このような状況の中でいかにして教育を提供するかを模索し、前期の講義をすべてオンラインで行う方針を決め、教職員一丸となって取り組みを行った。2019年度までに撮影済みの一部授業

のオンライン提供を4月に開始しつつ、5月からは本格的にすべての授業のオンライン提供を始めた。同時に大学奨学金の拡充、学生支援緊急給付金のLINE申請受付開始、緊急特別無利子貸与型奨学金の受付、PCの貸し出し、Wi-Fiルーターの貸し出し、授業料納付期限の延長等、いくつもの学生支援策を打ち出した。一方、医療物資不足に陥っていた兵庫県及び神戸市へサージカルガウン等の寄付を行った。

5月下旬に緊急事態宣言が解除されたが、他大学が前期の講義をすべてオンラインとして全面的に学生の大学への入構を禁止したことに対し、本学では6月から実習を中心にいち早く対面授業の一部を再開した。実習では通常の半分のクラスで、午前午後の2回にわけ、実習講義はあらかじめオンライン動画で行う、実習室では消毒と換気を必ず行う、暑さが厳しい中マスクとフェイスシールドをつけながら、という厳しい環境の中で実習を再開させ、演習・語学・ゼミ活動の対面授業も1学年週2日程度のペースで再開した。対面による前期定期試験は残念ながら3日の実施のみで中止することになり、レポート試験へ切り替えた。8月から9月には後期の講義再開に向けてオンライン授業のための機器・設備の増強を行った。対面とオンラインのハイブリッド型で行う方針で後期をスタートさせ、いち早く50%を超える対面授業再開を実現した。

たいへんな混乱の中にあった2020年度であったが、予定をしていた新カリキュラムの実施を1年延長、2021年度開始とし、2019年度に骨格を固めた総合教育研究センターの組織改編を実現した。一方で長年の懸案事項であった、耐震化100%に向けたキャンパス整備計画を再開し、推し進めた。2020年12月には基本方針を決議し、3月には実施業者を選定した。2021年度にはまず2,3,9号館と守衛室の解体工事が行われる予定である。その跡地に新2,3号館（仮称）及び防災管理センター（仮称）の新築工事が開始される計画とした。また、これまで閉鎖していた岡本寮（男子寮）について、指名競争入札を行い、最高値入札業者に売却した。新型コロナウイルス感染症の影響のため2019年度卒業式が中止になったことを踏まえ第4回ホームカミングデーを「2019年度卒業生を祝う会」として開催した。

次に、教育・研究の概要として、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の内容を記載する。

[教育・研究の概要]

（薬学部）

(1) ディプロマ・ポリシー

所定の単位を修得し、薬剤師に必要な以下に掲げる知識、技能、態度を備えた学生の卒業を認め、「学士（薬学）」の学位を授与する。

- ① 医療を担う薬の専門家として相応しい薬学に関する十分な知識、技能を有すること。
- ② 薬学・医療の進歩と改善に貢献できる科学的思考力、課題発見能力、問題解決能力を有すること。
- ③ 医療人として相応しい倫理観と使命感を有し、患者や生活者の立場に立って行動でき

ること。

- ④ 医療人に必要なコミュニケーション力を有すること。
- ⑤ 医療人としての活動に必要な英語力を有し、グローバル化に対応した国際感覚を有すること。
- ⑥ 地域の医療、環境衛生に貢献できる幅広い知識と見識を有すること。
- ⑦ 生涯にわたって自己研鑽をし続ける能力と意欲を有すること。

(2) カリキュラム・ポリシー

本学のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に基づいて、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目と本学独自の科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講する。

本学の教育課程では、その授業科目を基礎教育科目、教養教育科目及び専門教育科目に分ける。各授業科目は、必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成する。全ての授業科目に GIO（一般目標）と複数の SBOs（到達目標）を定める。これらの SBOs を達成することにより GIO に到達し、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を実現する。

- ・幅広い視野を身につけるための教養教育科目、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した薬学基礎系科目及び医療系科目を系統的に編成し、実施する。
- ・医療人としての倫理観と使命感を育成し、患者・生活者本位の視点を身につけるための科目を編成し、実施する。
- ・国際化に対応できる人材の養成を図るため、6年間を通じて英語を学べる環境を構築するとともに、医療、薬学に係る英語科目を編成し、実施する。
- ・地域の保健や医療に貢献できる知識と実践的能力を養成し、近隣大学や地域の医療機関との連携に基づくチーム医療教育を充実し、実施する。
- ・研究マインドを涵養し、生涯にわたって自己研鑽を続け、後進を育成する意欲と態度を有する人材の養成を図るため、薬学臨床科目、薬学研究科目を編成し、実施する。
- ・生涯学習に対する意欲を醸成するために、薬剤師生涯研修事業を取り入れるなど、特色ある薬学教育アドバンスト科目を編成し、実施する。
- ・本学独自科目をシラバスに明記し、履修モデルをもとに目指すキャリアを明確にする。
- ・高等学校から大学への円滑な接続ができるよう、初年次教育を充実させ、習熟度に配慮したクラス編成を取り入れた科目を編成し、実施する。
- ・科学的思考力、課題発見能力、問題解決能力及びコミュニケーションスキルの育成を図るため、PBL や SGD などのアクティブ・ラーニングを取り入れた少人数教育科目や統合教育科目を編成し、実施する。
- ・ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に掲げる薬剤師に必要な知識、技能、態度を評価する。

- ① 「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目と本学独自の科目の評価
- ② 実務実習の評価
- ③ 卒業研究の評価

(3) アドミッション・ポリシー

本学では、その理念、教育目標、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）のもと、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、社会に貢献する為に高度な薬学の知識と技能を修得できる資質と協働性をもった、次のような人を求めています。

求める人物像

- ① 自然科学を深く学ぶ意欲と能力を有している人物
- ② 高等学校までに学ぶべき事項を幅広く修得している人物
- ③ 本学での学習を通してこれからの社会で通用する実力及び医療人に必要なコミュニケーション力を身につけ、将来、薬学、医療、及び関連する分野で活躍したいという強い意志と意欲を持つ人物

求める人物像における具体的な項目について記載し、このような入学者を適正に選抜するため多様な選抜方法を実施します。

関心・意欲・態度・探究心

自然科学（特に薬学及び関連分野）に強い関心と学ぶ意欲を持ち、生命・健康・医療に関する諸問題に対して探究心を身に付け、活躍、貢献したいという意志を持つ人物

知識・教養

薬学の専門分野を学ぶために、入学後の学修に必要となる理科、数学に加え、英語等の基礎学力を有している人物

思考力・判断力

これまでの知識をもとに、思考を深めながら適切に判断できる人物

表現力・コミュニケーション力

自分が伝えたいことを相手に表現できるだけでなく、相手の表現を正しく理解し、コミュニケーションできる人物

協働性

問題解決のために、いろいろな分野の人と協力して活動できる人物

*高等学校で学ぶべき具体的な内容

（試験科目より）

理科「化学基礎・化学」「生物」「物理」の基礎的な知識と科学的に探究する姿勢

数学「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」の基礎的な知識と論理的思考力

英語「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「コミュニケーション英語Ⅲ」「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」の基礎的な読解力・表現力・コミュニケーション力・論理的思考力

（試験科目以外）

国語 様々な文章の読解力と自分の伝えたいことを表現できる基礎的な文章力

公民 倫理における基礎的な内容の理解

特別活動及び課外活動等を通じた自主性、協調的な態度や思いやりと奉仕の心

(大学院・博士課程(4年制)薬学研究科薬学専攻)

(1) ディプロマ・ポリシー

神戸薬科大学の理念に基づき、講義、演習、課題研究等を通じて以下に掲げる高度な専門知識と研究能力を身につけた上で、神戸薬科大学大学院学則に定める修了要件を満たした学生に博士(薬学)の学位を授与する。また、博士(薬学)の学位は、本学に学位申請論文を提出してその審査に合格し、かつ、博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認した者にも授与する。

- ① 薬学に関連する課題解決を目指すための高度な専門知識を修得し、先端的な研究を実践できる能力を身につけて、薬学研究を行うことができること。
- ② 国際的視点から薬学専門領域の研究動向を把握した論文作成能力及びコミュニケーション能力を身につけていること。
- ③ 高い倫理観と生涯にわたる自己研鑽の重要性を理解して、医療に関する課題を発見し、解決にむけて対応する能力が培われていること。

(2) カリキュラム・ポリシー

講義、演習、課題研究等を適切に組み合わせたカリキュラムを編成し、実施する。

全ての授業科目にGIO(一般目標)と複数のSBOs(到達目標)を定める。これらのSBOsを達成することによりGIOに到達し、ディプロマ・ポリシーを実現する。

- ・薬学研究を遂行するための基盤として、英語論文の作成能力や研究者としての倫理観を育成するための必修講義科目を設置し、実施する。
- ・薬学専門領域の研究動向や薬学に関連する課題解決を目指すための高度な専門知識を修得するための講義科目を編成し、実施する。
- ・論理的思考力、課題発見能力、外国語によるコミュニケーション能力の育成を図るため、演習科目を設置し、実施する。
- ・薬学研究者としての課題解決能力を養成するため、課題研究科目を重点的に配置し、実施する。また総説講演にて、最新の研究動向及び研究成果を発表することにより、プレゼンテーション能力及びディスカッション能力を養成するとともに、複数の教員により進捗状況やコミュニケーション能力を確認し、指導する。
- ・臨床薬学コースを選択した学生に対しては、医療現場等で課題を発見し、解決する能力を培うため、臨床研修科目を設置し、実施する。
- ・薬学における最新の動向を学ぼうとする意欲の高い社会人等が、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲を醸成するため、昼夜開講制の講義科目を設置し、実施する。

(3) アドミッション・ポリシー

神戸薬科大学の理念を理解し、大学院薬学専攻博士課程の人材養成の目的に応えるような次のような人物の入学を希望します。

- ① 医療人としての倫理性を備え、臨床薬学業務を担う熱意を持つとともに、確かで高度な専門知識に裏づけられた技能を持つことに意欲の高い人物
- ② チーム医療の現場において薬剤師として活躍できる人物
- ③ 創薬・育薬を担う熱意を持つとともに、人間性豊かで医薬品開発などの国際的舞台上で

活躍を目指す意欲の高い人物

(大学院・修士課程(2年制)薬学研究科薬学専攻)

(1) ディプロマ・ポリシー

神戸薬科大学の理念に基づき、講義、演習、課題研究を通じて以下に掲げる専門知識と研究能力を身につけた上で、神戸薬科大学大学院学則に定める修了要件を満たした学生に修士(薬科学)の学位を授与する。

- ① 最新の創薬科学、生命科学、あるいは臨床科学の専門知識の修得により、薬科学研究を遂行できる基盤的能力を身につけていること。
- ② 生涯にわたる自己研鑽の重要性を理解し、幅広い視野に立って薬科学領域の課題を発見する能力及びその課題解決のための基盤的能力が培われていること。

(2) カリキュラム・ポリシー

講義、演習、課題研究を適切に組み合わせたカリキュラムを編成し、実施する。

全ての授業科目にGIO(一般目標)と複数のSBOs(到達目標)を定める。これらのSBOsを達成することによりGIOに到達し、ディプロマ・ポリシーを実現する。

- ・薬科学研究を遂行するための基盤を育成する講義科目を設置し、実施する。
- ・最新の創薬科学、生命科学、あるいは臨床科学の専門知識を修得するための講義科目を編成し、実施する。
- ・科学的思考力、課題発見能力、コミュニケーションスキルの育成を図るため、演習科目を設置し、実施する。
- ・薬科学研究者としての課題解決能力を養成するため、課題研究科目を重点的に配置し、実施する。また研究成果発表会にて研究の進捗を報告することにより、プレゼンテーション能力を養成するとともに、複数の教員により進捗状況を確認し、指導する。
- ・薬学における最新の動向を学ぼうとする意欲の高い社会人等が、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲を醸成するため、昼夜開講制の講義科目を設置し、実施する。

(3) アドミッション・ポリシー

神戸薬科大学の理念を理解し、大学院薬科学専攻修士課程の人材養成の目的に応えるような次のような人物の入学を希望します。

- ① 4年制の薬学部を卒業し、より高度な創薬科学、生命科学、あるいは臨床科学の専門的知識や研究能力を持つ薬科学研究者を目指す人物
- ② 薬学部以外の出身者で、それぞれの専門的知識に本学が有する創薬科学研究の知識・技術を融合させた薬科学研究者を目指す人物

事業計画の各項目について、実施状況を次のとおり報告する。

1. 教育に関する計画

(学部)

(1) 3つのポリシーに基づく教育改革の継続的展開

2019年度に続いて、大学の理念、教育目標、3つのポリシー（①アドミッション・ポリシー、②カリキュラム・ポリシー、③ディプロマ・ポリシー）を基本に据えて改革を進めた。2020年度は、前述したとおり新型コロナウイルス感染症の中、学ぶ環境を維持・継続するために積極的な支援を行った。オンライン授業をする教員支援のため Zoom ライセンス、Web カメラ、モバイル PC、三脚、ヘッドセット、大型ディスプレイ等の購入で 4,000 千円、さらにインターネット回線の増強で 6,600 千円を投じた。学生には Wi-Fi ルーターの貸与で 1,023 千円、あわせて大学所有の PC の無償貸し出しを行った。また、実習時に着用するフェイスシールドの無償配布も行った。2021 年度からの授業も引き続きオンラインと対面の並行運用が決まり、授業支援システムの構築を検討し CampusPlanPortal 及び WebClass の LMS (Learning Management System) を 3,861 千円で整備し、新年度に備えた。これら遠隔授業関連費用の合計は約 15,500 千円に達し、このうち文部科学省の補助金 6,971 千円を受け取ることができた。

(2) 総合教育研究センターの新設

2019 年度に骨子を定めた総合教育研究センターについて、具体的な組織の編成に取り組んだ。組織図を改正し、統括部門に専任教員を配置、薬学臨床教育・研究センターと薬学基礎教育センターを総合教育研究センターの各部門に改組した。

(3) 薬学基礎教育センターに教育 IR 機能を追加

薬学基礎教育センターの改組により、総合教育研究センター統括部門で IR を行うこととした。手始めに 2021 年 3 月には卒業生にアンケートを実施し、分析をして教授会に報告を行った。

(4) 2021 年度カリキュラム改正

新型コロナウイルス感染症による混乱のため、実施時期を 1 年延長し 2022 年度を新カリキュラムの開始年度と改めた。

(5) 本学の特徴的な教育の構築（ティーラーメイド型教育）—思考力、主体性、積極性を磨く教育 2022 年度新カリキュラムの中で、特徴的な教育を推進する。

(6) 標準修業年限卒業での薬剤師国家試験合格率の向上（80%以上）

2019 年度卒業者のうち標準修業年限内（6 年間）の卒業・国家試験合格率は 73.8%である。本数字は大学のホームページで公開をしている。目標の 80%に向けて、一層の改善を目指したい。

(7) 学修成果の可視化

新型コロナウイルス感染症による混乱のため、2022 年度新カリキュラム開始にあわせて検討することとした。

(8) 学長裁量経費（5,000 千円）を活用した教育改革プログラムの展開

「薬用植物園を利用した教育」をテーマとしたプログラムを採択し、150千円を配分経費として決定した。本テーマの成果は2021年7月に報告会で発表される予定である。

(9) カレッジ TOEIC L&R IP テストの受験補助の継続

新型コロナウイルス感染症による休校のため、前期は TOEIC の実施を見送った。後期に実施した TOEIC で計画通り受験補助を支給した。受験者は 102 名、1 名あたりの受験料 4,000 円全額、総額 408 千円を支援した。

(大学院)

(1) 3 つのポリシーに基づく教育改革の継続的展開

学部と同じく大学院においても、大学の理念、教育目標及び3つのポリシー（①アドミッション・ポリシー、②カリキュラム・ポリシー、③ディプロマ・ポリシー）を基本に据えて改革を進めた。

(2) 大学院活性化方策の推進

学部学生へ大学院への誘い活動を行ったが、新型コロナウイルス感染症のため十分な活動ができなかった。

(3) 地域連携サテライトセンターにおける昼夜開講制特論の開講

新型コロナウイルス感染症のため、2020年度は地域連携サテライトセンターでの行事はすべて中止としたため、大学院特論の開講も見送られた。

(4) 社会人大学院生の支援体制の充実

大学のホームページに「大学院進学情報サイト」を開設、印刷冊子体としては「ミライ処方箋」を作成した。また、ホームページに「ファイナンシャル・プラン」のページを作成した。大学院博士課程では、特に優れた研究業績を上げたと認められる大学院生に対して在学期間の特例（早期修了）制度の情報を掲載し、社会人のみならず広く大学院生に情報提供の支援を行った。

2. 研究に関する計画

(1) 学長裁量経費（20,000千円）に基づく学内共同研究プログラム（神戸大学大学院医学研究科との連携を含む）の展開

学長裁量経費に基づく学内共同研究として13件のプログラムを採択し、19,550千円を研究支援経費として配分した。13件のうち5件は神戸大学大学院医学研究科との共同研究であった。

(2) 産学官連携推進委員会を中心とした学内外共同研究の推進

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）や国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業に積極的に関与し、複数の研究室が事業に参加し研究活動の推進が計れた。今後も参加をしていくため、受託研究規程を新規に作成した。

(3) 競争的外部資金の獲得（効果的に獲得するための方策）

科学研究費助成事業についても継続的に申請し、先進的な研究課題に積極的に取り組み42件（75,010千円）が採択された。

学長裁量経費に基づく学内共同研究で選出された研究内容を学術研究振興資金へ申請し、

1,500 千円の交付を受けた。

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）から 12,610 千円、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）から 3,575 千円の交付を受けた。

（4）研究支援体制の整備

リサーチ・アドミニストレーションの高度専門知識をもつ人材をシニア・リサーチ・アドミニストレーターとして 4 月に採用し、研究支援業務を総務課の担当から企画・広報課に移管した。各種研究支援業務が企画・広報課に集約され、研究支援全般の業務を実施しつつ、それらの基盤整備を開始することができた。

（5）本学教育職員と臨床現場との連携による臨床研究推進

- ・2019 年度より実務家教員にも積極的に研究することを推進しており、いくつかの研究テーマを開始して、臨床現場での問題解決に役立つ研究を行っている。
- ・多施設共同臨床研究を開始した。臨床研究未経験者にも積極的な参加を促し、代表研究者と本学とで概要を提示しながら、研究内容の確認や医療倫理審査の承認取得を行った。

（6）研究不正防止の徹底（研究不正防止委員会、監事、内部監査室の機能強化）

研究不正防止委員会、監事、内部監査室で連携を取り合い、研究不正防止の徹底に努めた。内部監査室には専任職員を配置し、内部監査規程を改正した。文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づく令和 2 年度履行状況調査対象校に指定されたが、報告書の作成・提出を行った結果、指導・改善事項が「特になし」と高い評価を得ることができた（2020 年度調査対象の 53 機関中、「特になし」は 5 機関のみ）。

（7）知的財産権権利化の積極的推進

本学が初めて単独で出願人となる特許出願を行った。発明の取り扱いから特許出願までの流れを掴み、第一歩を刻むことができた。また、海外企業への成果有体物移転に対応し、有償での成果有体物移転契約について海外企業と交渉・締結を行った。

（8）研究機器の整備と集中管理（中央分析室の在り方についての検討）

400MHz 核磁気共鳴装置システムを購入し、研究機器の整備を図った。
大型機器購入時の受益者負担についても整備した。

3. 学生支援に関する計画

（学生生活支援の強化）

（1）奨学金、授業料減免を含めた修学サポート

新型コロナウイルス感染症により経済的影響を受け困窮している学生を支援するため、国の「高等教育の修学支援新制度」、本学独自の「応急援助奨学生制度」の拡充など、積極的に学生支援を行った。応急援助奨学金（授業料半期分相当額）の支援では、15 名、総額 13,500 千円（うち新型コロナウイルス感染症対策は 12 名、10,800 千円）の支援を行った。

一方、文部科学省「学びの継続のための『学生支援緊急給付金』」についても、学生への積極的なアナウンスの結果、本学の推薦枠上限で申請できた。

(2) 学生自治会のサポート

2020年度は休校措置などもあり、学生自治会やクラブ等の課外活動を著しく制限せざるを得ない状況であった。学生自治会の弱体化が予想されるので、今後、サポート体制を改めて考えていく必要がある。

(3) 学生食堂の混雑緩和についての検討

2020年度は新型コロナウイルス感染症対策のため食堂は長期の休業に追い込まれた。6月から一部再開、後期にはさらに時間及びメニューを増やして営業を再開することになったが、その際には着席数の制限、テーブルに飛沫防止パネルの設置等、感染対策を実施した。混雑緩和については、時期をみて改めて検討する。

(4) 神戸女子学生会館（六甲アイランド）の借り上げ補助の検討

引き続き検討する。

(5) カウンセリングの充実

緊急事態宣言の発令により、学生と対面でのカウンセリングが難しい状況を鑑みて、学生相談室ではZoomによる遠隔カウンセリングを行った。カウンセリング希望者はメール等で申し込み、学生相談室から返信をし、日時を決定、自宅（あるいはプライベートな場所）と大学間で学生の悩み事について相談できる体制を用意し、web掲示板で学生に告知のうえ5月11日から運用をスタートした。

(キャリア支援の強化)

(1) 新規就職先、求人先の開拓

新型コロナウイルス感染症の影響で求人先の訪問が難しくなる中、メール、Zoomを駆使して就職先・求人先の確保に努力した。

(2) キャリア支援プログラムの充実と面談を中心としたキャリア支援の推進

【全学年対象】

- ・ 4/6 (月) ~ 4/7 (火)
「病院合同説明会」《オンライン配信》
- ・ 9/16 (水) ~ 9/17 (木)
三葉科大学合同 「業界研究セミナー」(企業・病院)《オンライン配信》
- ・ 12/22 (火)
「病院研究フェア」《オンライン配信》
- ・ 2/6 (土) ~ 2/7 (日)
「企業研究フェア I・II」(製薬メーカー・CRO・SMO・化粧品)《オンライン配信》
- ・ 3/23 (火) ~ 3/24 (水)
「就職フェア I・II」(病院・官公庁・薬局)《オンライン配信》

【6年次生対象】

- ・ 4/14 (火)
「論作文」実践トレーニング《自宅受検》

【5年次生対象】

- ・ 4/23 (木)

- 「インターンシップ」エントリーシートの書き方ガイダンス《オンライン配信》
・12/18（金）

「履歴書・エントリーシート対策講座」《対面とオンライン配信のハイブリッド》
薬学生のための「面接対策講座」《対面とオンライン配信のハイブリッド》
「集団面接・グループディスカッション」実践トレーニング《対面》

【5・6年次生対象】

- ・4/13（月）
病院・公務員セミナー「論作文対策講座」《オンライン配信》
・4/14（火）
病院就活セミナー《オンライン配信》

【4・5年次生対象】

- ・5/27（水）
就活・インターンシップスターティング講座《オンライン配信》
・8/20（木）
就活スタートアップセミナー2020（1回目）《オンライン配信》
「履歴書・エントリーシート対策講座」（1回目）《オンライン配信》
「エントリーシート」実践トレーニング（1回目）《自宅受検》
・9/18（金）
就活スタートアップセミナー2020（2回目）《オンライン配信》
「履歴書・エントリーシート対策講座」（2回目）《オンライン配信》
「エントリーシート」実践トレーニング（2回目）《自宅受検》
・9/24（木）
仕事研究講座Ⅰ（エイツーヘルスケア株式会社）《オンライン配信》
仕事研究講座Ⅱ（沢井製薬株式会社）《オンライン配信》
・9/25（金）
仕事研究講座Ⅲ（中外製薬株式会社）《オンライン配信》
・12/23（水）
第1回 病院就活ガイダンス《対面とオンライン配信のハイブリッド》
・3/22（月）
第2回 病院就活ガイダンス《対面とオンライン配信のハイブリッド》
病院・公務員志望者のための「論作文対策講座」《対面とオンライン配信のハイブリッド》
「論作文」実践トレーニング《自宅受検》
・3/29（月）
公務員ガイダンス《対面とオンライン配信のハイブリッド》

【1～4年次生対象】

- ・10/5（月）
第1回 キャリアガイダンス《対面とオンライン配信のハイブリッド》

・ 12/14 (月)

第 2 回 キャリアガイダンス「企業への就職を考える」《対面とオンライン配信のハイブリッド》

・ 1/25 (月)

第 3 回 キャリアガイダンス 「病院・薬局への就職を考える」《対面とオンライン配信のハイブリッド》

【新 5 年次生 (4 年次生) 対象】

・ 2/2 (火)

就活キックオフセミナー2021《対面》

【インターンシップ】

・ 1/29 (金)

単位制 (大学推薦制・公募制) インターンシップ受講説明会《対面とオンライン配信のハイブリッド》

「ビジネス・マナー講座」《対面とオンライン配信のハイブリッド》

緊急事態宣言の発令により、学生と対面での面談が困難となった前期には、いち早く Zoom によるオンライン面談を開始した。また、休校措置が明けて学生が大学に登校できるようになってからは、オンラインと対面の併用で面談を実施、キャリア支援課のカウンターにアクリル板を設置して対面時の面談で新型コロナウイルス感染症対策を行った。

(3) インターンシップの充実

新型コロナウイルス感染症で人の移動の自粛、緊急事態宣言で外出制限がかかり、2020 年度の単位制インターンシップは中止せざるを得なかった。

(4) 大学院進学支援の強化及び大学院生就職先の開拓

2019 年度は各イベントや説明会において、博士 (薬学) の重要性や必要性を積極的にアナウンスした。また、インターンシップの受入れ調査時に、大学院生のインターンシップ受入れや採用計画を尋ね、「興味がある」と返答された企業には訪問し、意見交換を行った。2020 年度は新型コロナウイルス感染症のため活動が異なることとなったが、コロナ禍が落ち着いた暁には再開したい。

(5) キャリアコンサルタント国家資格の取得奨励

「きめ細かく、手厚い支援」を実践するために、キャリア支援課員には引き続きキャリアコンサルタント国家資格の取得を促す。

4. 学生募集に関する計画

「2021 年度入学試験結果について」

入試形態	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
学校推薦型選抜 指定校制	55 (56)	55 (56)	55 (56)	55 (56)
学校推薦型選抜 公募制	554 (606)	550 (555)	168 (160)	60 (63)
一般選抜 大学入学共通テスト利用	397 (466)	397 (466)	141 (144)	8 (8)
一般選抜 前期	756 (856)	729 (826)	315 (327)	88 (73)
一般選抜 中期	372 (398)	256 (273)	73 (65)	32 (37)
一般選抜 後期	199 (190)	187 (181)	44 (48)	34 (38)
合計	2,333 (2,572)	2,174 (2,357)	796 (800)	277 (275)

単位：人

()は前年度を示す

<概要> 志願者総数は、前年比91%で落着。関西私立大学(主要57大学)の平均値が86%、関西私立薬系大学が83%(リクルート調査)の状況を踏まえると善戦したと評価できる。

(1) Web 出願システム導入

懸案事項であった Web 出願システムを導入し、2021 年度入学試験の出願から運用を始めた。

(2) 入試関係システム更新

入試システムを刷新し、学内成績を管理している CampusPlan システムで入試システムを再構築した。2021 年度の入学試験結果が新システムから保存されるので、データ分析に活用していく。

(3) 入試制度の見直し

新しく「特待生制度」を導入した。一般選抜前期における成績上位者5名について、年間授業料金額1,800千円、在学中最大7,200千円を全額給付するもので、優秀な学生の獲得を目指した。

(4) 入試広報の積極的展開

入試課で行っている入試広報と企画・広報課で行っている大学広報の連携をしっかりと、JR西日本や阪急電車の電車広告、ターミナル駅でのサイネージ広告、テレビCMなどを

積極的に展開した。また、大学院進学情報のホームページを受験生が閲覧し易いように改修した。

(5) 教職協働による高校への広報活動の強化

新型コロナウイルス感染症のため、高校への訪問活動に大きく制限がかかった。今後も高校訪問等の活動に影響が続くと思われるが、オンラインでの対応、効果的な広告の展開、特待生制度のアピールを行い出願者数の維持に努めたい。

(6) 共通テストの戦略的導入

大学入試センター試験から共通テストに変更となる初年度となった。新試験では、変更された手順も多かったが、しっかりと対応をし、無事に共通テストを実施した。

(7) 大学院生の確保

2019年度には、各イベントや説明会において、大学院主幹が博士（薬学）の重要性や必要性を積極的にアナウンスした。2020年度は学生が休校となる期間も長く、十分なアナウンスをする機会がなかったが、現在籍中の大学院生へのアンケートを実施して交流会を開く予定がある。

5. キャンパス整備及び施設・設備に関する計画

(キャンパス整備)

(1) 魅力的かつ合理的なキャンパスデザインの策定（新 2,3 号館建設を含む）

長年の懸案事項であった、耐震化 100%に向けたキャンパス整備計画を再開し推し進めた。2020年12月には基本方針を決議し、設計施工業者3社によるプレゼンテーションを経て、2021年3月には業者を選定した。2021年度は先ず2,3,9号館及び守衛室の解体工事を行ったのち、その跡地に新2,3号館（仮称）及び防災管理センター（仮称）の新築工事を開始する。

(施設関係)

(1) 薬理学研究室移転

研究室棟への集約及び3号館解体工事を見据え、3号館2,3階の薬理学研究室を10号館3,4階へ2021年2月に移転した。

(2) 学生支援センター移転

3号館解体工事を見据え、3号館1階の学生支援センターを1号館2階及び3階へ2021年3月に移転した。

(3) 1号館実習室改修

2号館、3号館解体工事を見据え、2号館J225及び3号館J325,J335で行っていた実習を1号館J115,J135,J145,J155で実施できるように改修し、2021年3月に移転した。

(設備関係)

(1) コンピュータ演習室パソコンの有効利用

新型コロナウイルス感染症により、多くの授業がオンラインとなった。インターネット環境、あるいはPC環境を持たない（PC環境が脆弱な）学生を支援するため、情報支援室パブリックルームに加えて、コンピュータ演習室を積極的に開放し、学生のニーズに応えた。

(2) 4号館熱源改修

整備が必要であった4号館熱源改修工事を実施した。

(3) 核磁気共鳴装置(400MHz)設置

400MHz核磁気共鳴装置システム(日本電子)を総額26,290千円で購入し、8号館1階NMR室に設置した。この機器購入にあたっては文部科学省の補助金8,944千円を受けることができた。

(4) 動物実験施設高圧蒸気滅菌装置更新

整備が必要であった5号館動物実験施設における高圧蒸気滅菌装置の更新工事を実施した。

(5) 事務用パソコン更新

OSがサポート切れとなっていた事務用パソコンを2021年3月に更新し、セキュリティの改善に務めた。

(6) ウイルスチェックサーバー更新

新型コロナウイルス感染症によるメーカーの社会的還元事業により、ウイルスチェックシステムのライセンスが延長されることとなり、サーバー更新は見送りライセンス更新のみを行った。サーバー更新はライセンス終了時にあらためて実施する。

6. 社会連携事業に関する計画

(1) 地域連携サテライトセンターの活用

- ・「健康サポートセミナー」(神戸市東灘区との共催事業)の開催
 - ・「くすりと健康セミナー」(神戸市東灘区薬剤師会との共催事業)の開催
 - ・「地域健康サポートカフェ(がんメディカル・カフェ)」の開催
 - ・「地域健康サポートカフェ(ほっこり塾)」の開催
 - ・「ひがしなだキッズサイエンススクール」(東灘区・甲南大学との連携事業)への参画
- 新型コロナウイルス感染症のため、2020年度は地域連携サテライトセンターでの行事をすべて中止としたが、上記の行事のうち、「がんメディカル・カフェ」はオンラインで開催した。

(2) 神戸大学との連携協定に基づく神戸大学大学院医学研究科との共同研究の推進

学長裁量経費に基づく学内共同研究として13件のプログラムを採択し、19,550千円を研究支援経費として配分した。13件のうち5件は神戸大学大学院医学研究科との共同研究であった。

(3) 甲南女子大学との連携協定の締結

甲南女子大学との連携科目である「在宅医療演習」はオンラインで開催した。

(4) 関西学院大学との研究面での連携についての検討

2020年度は特に進展はなかった。

(5) 「東灘次世代医療人材育成コンソーシアム」の推進

新型コロナウイルス感染症のため、2020年度は行事が中止となった。担当者間で連絡をとりあい、年度末には情報交換を行った。

(6) 薬剤師生涯研修支援

- ・生涯研修認定制度 (G07) 研修会の開催
- ・健康食品領域研修認定薬剤師制度 (P05) 研修会の開催

「健康食品領域研修認定薬剤師制度(P05)」が初回認定を受けてから3年が経過し、2020年12月14日で認証有効期限が満了になるにあたり、公益社団法人薬剤師認定制度認証機構に認証更新申請を行ったところ、無事に承認となった。

新型コロナウイルス感染症のため、前期に予定をしていたエクステンションセンター事業はすべて中止となったが、オンラインでの実施を検討し、後期から提供することができた。エクステンションセンターe-learning 講座は、薬事日報 (2021年4月19日) の記事にもなり、多くの薬剤師から関心をもって注目されている。

(7) 国際交流

- ・「国際交流の基本方針」の策定
- ・マサチューセッツ薬科健康科学大学(MCPHS)との交流(「海外薬学研修」の実施、MCPHSからのローテーション学生の受け入れ、共同研究の実現)
- ・新たな国際交流の構築—アジア、欧米地域との交流

新型コロナウイルス感染症のため、米国ボストンを訪問する海外薬学研修はオンラインでの開催となった。オンラインの授業では、米国の薬剤師、アジアの薬剤師にもオンデマンドで参加をして頂き、学生は熱心に受講をした。

7. 広報活動に関する計画

(1) 「2032大学のビジョン」策定

広報ポリシーを補完するものとして「広報ポリシー実施要領」を作成した。

100周年に向けた2032大学ビジョンの策定は行わなかったが、90周年記念事業委員会を発足した。90周年に向けて当初は募金活動を行う計画としたが、コロナ禍で経済に大きなダメージを抱えている今、90周年募金活動を新たに実施するのは困難と判断し、募金活動は既存の「神戸薬科大学教育研究資金」と「新型コロナウイルス感染症対策基金」に集約して行うこととした。

(2) ブランド力強化を目的とした戦略的広報活動の展開「2022神研プロジェクト」

神戸薬科大学の研究力をブランドとして、キャッチコピー「真剣に神研しよう」とした神研プロジェクトを企画し広報活動を行った。5月にはテレビCMも展開し、作成した動画はホームページ上で2次展開をした。

(3) ホームページ・SNSなどを活用した積極的な情報発信

「神研プロジェクト」をホームページ上でも企画、展開し、大学のブランド向上をおこなった。SNSでは、Twitterで積極的な情報発信を行い、フォロワーを増やしていくことができた。

(4) 校章・コミュニケーションマーク・ロゴタイプを積極的に活用したブランドの浸透

90周年記念事業委員会で90周年ロゴマークを作成、決定した。2021年度は校章・コミュニケーションマークに加えて90周年ロゴマークも使用していく予定である。

8. 自己点検・評価に関する計画

(1) 学校法人運営調査結果（文部科学省）に基づいた改善の実施

文部科学省の調査実施時に問題とされた教授の人数については、すでに改善されている。その他理事会、評議員会の運営等については改革を行い改善された。

(2) 大学基準協会による実地調査評価結果に基づいた改善の実施

前項の回答と同じく、大学基準協会実地調査時点で問題のあった教授の人数については、すでに改善されている。また、満期退学者に課程博士を与えていた点については、すでに運用を改め論文博士として取り扱うことにしており改善された。

(3) 日本私立学校振興・共済事業団による実施状況調査結果に基づいた改善の実施

調査実施時点で協議事項となった大学院担当教員と女性教員の取り扱いについてはその後、事業団にて取り扱い要項が改正されたので解決済み。問い合わせをうけた共同研究の測定料や経費の正しい運用についても研究不正防止計画の充実で改善がなされ、障害がある学生への対応の徹底についても教授会で告知を行うことで改善された。

(4) 薬学教育評価機構による評価結果に基づいた改善の実施

薬学教育評価機構へ改善報告書を提出し、その結果が通知された。審査結果は、改善が行われたものとして、薬学教育評価機構のホームページにも公開されている。

(https://www.jabpe.or.jp/special/result_28_1.html)

(5) 在学生及び卒業生の意見を採り入れた教育・研究活動の改善の実施

在学生に対してアンケートや意見を募集することは、従前より頻繁に行われていたが、卒業生に対しては未実施であった。2020年度には新たに組織した総合教育研究センターにより、新卒卒業生に対して本学の教育制度に対するアンケート調査を行い、その結果を教授会で共有した。

9. 管理・運営・財政基盤強化に関する計画

(1) 管理・運営の基盤強化

・人材の積極的採用・登用

人材採用について、教育職員は、2020年度に教授、准教授、講師、助教、助手の各層の採用を行った。事務職員では、キャリア支援課員、入試課員、企画・広報課員と研究支援担当非常勤職員の採用を行った。学長及び学内理事のガバナンス力を高めるため、学長特命補佐を採用した。

・働き方改革の推進

長時間労働の抑制、休日出勤及び振替休日取得の管理に取り組んだ。教育職員の専門業務型裁量労働制について労使協定の締結、タイムレコーダーの導入により客観的労働時間の把握ができた。

(2) 財政の基盤強化

・財務監査、業務監査の充実

業務監査の充実のため監事連絡会を設けた。また、監事連絡会では「研究機関における公的研究費の管理・監査ガイドライン」の改正に基づいて、内部監査室から内部監査計画と

監査結果の報告を受けることとした。

- ・競争的外部資金の獲得
- ・積極的な補助金の獲得
- ・90周年記念事業推進委員会の発足と募金活動
- ・奨学基金などの創設

競争的外部資金の獲得向上のため、科学研究費について2020年度から申請書のブラッシュアップを行った。

寄付金事業については、「神戸薬科大学教育研究資金」「新型コロナウイルス感染症対策基金」の2種類を展開し、法人・個人からの募金を受け付けた。

(3) IR (Institutional Research) の活用

- ・IRを用いた客観的、合理的なデータに基づいた施策（教育改善、学生支援、経営戦略）の実行
- ・PDCAサイクルの展開

新たに設置した総合教育研究センターでIRを用いた分析とPDCAサイクルの展開を行う。2020年度はその組織を創設した。

(4) 組織運営の見直しと職員評価の整備

- ・意思決定方法の改善（会議マネジメントの構築）
- ・組織マネジメントの再編（各種委員会及びその構成、選出方法）
- ・客観的評価を採り入れた教育職員評価制度の導入を目的としたトライアル実施
- ・事務組織のガバナンス強化を目指した組織の再編

副学長を委員長として各種委員会の見直しを行った。教育職員評価制度についてはトライアルを実施した。ガバナンス強化のためガバナンス・コードを制定し2020年4月にホームページに公開した。

(5) 人材の育成とダイバーシティ

- ・ファカルティ・ディベロップメントによる教育内容・方法の改善・向上
- ・スタッフ・ディベロップメントの積極的な取り組み
- ・留学支援（教育職員）及び国内研修等支援（事務職員）制度の導入
- ・女性が活躍できる雇用環境の整備と障害者雇用の推進

新型コロナウイルス感染症のため、留学支援や国内研修は制限される状況であった。女性が活躍する雇用環境整備については、看護休暇及び介護休暇の取得可能日数を増やすこととし、「育児休業等に関する規程」及び「介護休業等に関する規程」を改正した。障害者雇用については、引き続き雇用活動に取り組んでいく。各種ハラスメント防止等に関する規程を整備し、外部相談窓口の設置につなげた。

Ⅲ 財務の概要

1. 事業の予算執行

2020 年度予算の執行にあたっては、従来に引き続き効率的な予算執行と節約に努めた。経常的事業以外に、2020 年度に執行した新規事業の主なものは次のとおりである。

・薬理学研究室移転	111,938 千円
・学生支援センター移転	65,727 千円
・核磁気共鳴装置 400MHZ	26,290 千円
・4 号館熱源改修	20,262 千円
・動物実験施設高圧蒸気滅菌装置更新	18,646 千円
・如修塾設備改修	18,086 千円
・遠隔授業整備	16,321 千円
・事務用パソコン更新	14,074 千円
・危険物倉庫移転	13,764 千円
・応急援助奨学金（新型コロナウイルス感染症関係）	10,800 千円
・入試システム更新	10,451 千円
・新型コロナウイルス感染症対策	10,283 千円
・WEB 出願システム導入	9,350 千円
	他

2. 法人会計決算

(1) 資金収支計算書

収入面では、収入の大半を占める学生生徒等納付金収入がほぼ予算額通りであったが、寄付金収入や補助金収入が予算額を大きく上回ったことにより、前年度繰越支払資金を含む収入の合計は 5,488 百万円と予算額を 231 百万円上回った。支出面では、予算執行の見直しや経費節減により、人件費支出、教育研究費支出、管理経費支出について予算額対比で抑制したが、今後のキャンパス整備に向けた特定資産の積み増しを行ったことにより、支出の合計は 4,060 百万円と予算額を 78 百万円上回り、その結果、翌年度繰越支払資金は予算額を 153 百万円上回る 1,429 百万円となった。

(2) 事業活動収支計算書

岡本寮の処分等に伴い特別収支が 99 百万円の支出超過となったが、教育活動収支、教育活動外収支とも各々 435 百万円、41 百万円の収入超過であったため、基本金組入前当年度収支は 378 百万円の収入超過を確保した。さらに基本金組入額 199 百万円を控除した当年

度収支も179百万円の収入超過を確保し、前年度繰越収支を加えた最終的な翌年度繰越収支は542百万円の収入超過となった。

(3) 貸借対照表

資産総額は、有形固定資産において岡本寮の売却や減価償却の進捗がある一方で、第2号基本金引当特定資産を含む各種特定資産の積み増しを行った結果、合計では356百万円増加し、26,652百万円となる一方、負債総額は22百万円減少し、1,467百万円となり、期末純資産額（資産総額－負債総額）は前年度に比べ378百万円増加し25,185百万円となった。

資 金 収 支 計 算 書

第一号様式（第12条関係）

2020年 4月 1日 から
2021年 3月31日 まで

(単位 円)

収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,137,200,000	3,141,115,000	△ 3,915,000
手数料収入	87,200,000	87,793,392	△ 593,392
寄付金収入	25,000,000	48,604,709	△ 23,604,709
補助金収入	291,300,000	349,268,900	△ 57,968,900
資産売却収入	150,000,000	132,000,000	18,000,000
付随事業・収益事業収入	28,800,000	34,970,000	△ 6,170,000
受取利息・配当金収入	40,900,000	41,435,453	△ 535,453
雑収入	34,200,000	44,202,223	△ 10,002,223
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	387,100,000	418,075,210	△ 30,975,210
その他の収入	168,100,000	202,578,626	△ 34,478,626
資金収入調整勘定	△ 399,800,000	△ 427,932,730	28,132,730
前年度繰越支払資金	1,307,300,000	1,416,344,284	△ 109,044,284
収 入 の 部 合 計	5,257,300,000	5,488,455,067	△ 231,155,067
支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,559,600,000	1,491,513,143	68,086,857
教育研究経費支出	1,225,800,000	960,602,599	265,197,401
管理経費支出	271,900,000	217,788,311	54,111,689
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	299,500,000	210,042,674	89,457,326
設備関係支出	229,400,000	207,861,564	21,538,436
資産運用支出	305,000,000	906,864,736	△ 601,864,736
その他の支出	114,300,000	115,186,972	△ 886,972
〔予備費〕	20,000,000		20,000,000
資金支出調整勘定	△ 43,500,000	△ 50,022,667	6,522,667
翌年度繰越支払資金	1,275,300,000	1,428,617,735	△ 153,317,735
支 出 の 部 合 計	5,257,300,000	5,488,455,067	△ 231,155,067

活動区分資金収支計算書

2020年 4月 1日 から

2021年 3月31日 まで

第四号様式（第14条の2関係）

（単位 円）

科目		金額
教育活動による資金収支	収入	
	学生生徒等納付金収入	3,141,115,000
	手数料収入	87,793,392
	特別寄付金収入	1,000,000
	一般寄付金収入	47,604,709
	経常費等補助金収入	342,297,900
	付随事業収入	34,970,000
	雑収入	44,202,223
	教育活動資金収入計	3,698,983,224
	支出	
	人件費支出	1,491,513,143
	教育研究経費支出	960,602,599
	管理経費支出	217,788,311
	教育活動資金支出計	2,669,904,053
差引	1,029,079,171	
調整勘定等	124,816,522	
教育活動資金収支差額	1,153,895,693	
施設整備等活動による資金収支	収入	
	施設設備寄付金収入	0
	施設設備補助金収入	6,971,000
	施設設備売却収入	132,000,000
	第2号基本金引当特定資産取崩収入	27,000,000
	施設整備等活動資金収入計	165,971,000
	支出	
	施設関係支出	210,042,674
	設備関係支出	207,861,564
	第2号基本金引当特定資産繰入支出	300,000,000
	減価償却引当特定資産繰入支出	600,000,000
	施設整備等活動資金支出計	1,317,904,238
	差引	△ 1,151,933,238
	調整勘定等	△ 66,064,067
施設整備等活動資金収支差額	△ 1,217,997,305	
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）		△ 64,101,612
その他の活動による資金収支	収入	
	借入金等収入	0
	退職給与引当特定資産取崩収入	7,431,828
	預り金受入収入	30,072,518
	研究充実準備積立金取崩収入	3,300,000
	奨学金引当特定資産取崩収入	1,000,000
	小計	41,804,346
	受取利息・配当金収入	41,435,453
	その他の活動資金収入計	83,239,799
	支出	
	借入金等返済支出	0
	第3号基本金引当特定資産繰入支出	1,864,736
	研究充実準備積立金繰入支出	5,000,000
	小計	6,864,736
借入金等利息支出	0	
その他の活動資金支出計	6,864,736	
差引	76,375,063	
調整勘定等	0	
その他の活動資金収支差額	76,375,063	
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）		12,273,451
前年度繰越支払資金		1,416,344,284
翌年度繰越支払資金		1,428,617,735

活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおり。

(単位 円)

項目	資金収支計算書計 上額	教育活動による資 金収支	施設整備等活動に よる資金収支	その他の活動によ る資金収支
授業料等前受金収入	416,600,000	416,600,000	0	0
その他前受金収入	1,475,210	1,475,210	0	0
前期末未収入金収入	133,774,280	104,809,280	28,965,000	0
期末未収入金	△ 28,079,800	△ 3,220,800	△ 24,859,000	0
前期末前受金	△ 399,852,930	△ 399,852,930	0	0
収入計	123,916,760	119,810,760	4,106,000	0
前期末未払金支払支出	109,323,602	38,691,535	70,632,067	0
前払金支払支出	5,863,370	5,863,370	0	0
期末未払金	△ 46,797,334	△ 46,335,334	△ 462,000	0
前期末前払金	△ 3,225,333	△ 3,225,333	0	0
支出計	65,164,305	△ 5,005,762	70,170,067	0
収入計 - 支出計	58,752,455	124,816,522	△ 66,064,067	0

事業活動収支計算書

2020年 4月 1日 から
2021年 3月31日 まで

第五号様式 (第23条関係)

(単位 円)

	科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収入の部	事業活動収入の部			
	学生生徒等納付金	3,137,200,000	3,141,115,000	△ 3,915,000
	手数料	87,200,000	87,793,392	△ 593,392
	寄付金	25,000,000	48,604,709	△ 23,604,709
	経常費等補助金	291,300,000	324,409,900	△ 33,109,900
	付随事業収入	28,800,000	34,970,000	△ 6,170,000
	雑収入	34,200,000	44,202,223	△ 10,002,223
	教育活動収入計	3,603,700,000	3,681,095,224	△ 77,395,224
教育活動支出の部	事業活動支出の部			
	人件費	1,546,400,000	1,484,081,315	62,318,685
	教育研究経費	1,701,700,000	1,450,441,370	251,258,630
	管理経費	365,500,000	311,630,701	53,869,299
	徴収不能額等	0	0	0
	教育活動支出計	3,613,600,000	3,246,153,386	367,446,614
教育活動収支差額		△ 9,900,000	434,941,838	△ 444,841,838
教育活動外収入の部	事業活動外収入の部			
	受取利息・配当金	40,900,000	41,435,453	△ 535,453
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	40,900,000	41,435,453	△ 535,453
	事業活動外支出の部			
	借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	
教育活動外支出計	0	0	0	
教育活動外収支差額		40,900,000	41,435,453	△ 535,453
経常収支差額		31,000,000	476,377,291	△ 445,377,291
特別収支	事業活動収入の部			
	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	0	38,886,996	△ 38,886,996
	特別収入計	0	38,886,996	△ 38,886,996
	事業活動支出の部			
	資産処分差額	51,700,000	137,631,291	△ 85,931,291
その他の特別支出	0	0	0	
特別支出計	51,700,000	137,631,291	△ 85,931,291	
特別収支差額		△ 51,700,000	△ 98,744,295	47,044,295
[予備費]		20,000,000		20,000,000
基本金組入前当年度収支差額		△ 40,700,000	377,632,996	△ 418,332,996
基本金組入額		△ 351,800,000	△ 198,603,721	△ 153,196,279
当年度収支差額		△ 392,500,000	179,029,275	△ 571,529,275
前年度繰越収支差額		362,900,000	362,941,975	△ 41,975
翌年度繰越収支差額		△ 29,600,000	541,971,250	△ 571,571,250
(参考)				
事業活動収入計		3,644,600,000	3,761,417,673	△ 116,817,673
事業活動支出計		3,685,300,000	3,383,784,677	301,515,323

貸借対照表

第七号様式（第35条関係）

2021年 3月31日

（単位 円）

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	25,189,870,505	24,743,121,515	446,748,990
有形固定資産	11,777,520,160	12,198,904,078	△ 421,383,918
土地	700,025,026	867,626,704	△ 167,601,678
建物	9,041,940,087	9,218,065,075	△ 176,124,988
構築物	299,664,660	314,115,733	△ 14,451,073
教育研究用機器備品	691,903,788	698,755,282	△ 6,851,494
管理用機器備品	81,163,744	72,944,048	8,219,696
図書	962,074,855	1,023,497,436	△ 61,422,581
車両	748,000	1,122,000	△ 374,000
建設仮勘定	0	2,777,800	△ 2,777,800
特定資産	13,406,982,034	12,538,849,126	868,132,908
第2号基本金引当特定資産	3,333,000,000	3,060,000,000	273,000,000
第3号基本金引当特定資産	956,190,658	954,325,922	1,864,736
減価償却引当特定資産	7,325,364,257	6,725,364,257	600,000,000
第4号基本金引当特定資産	248,834,000	248,834,000	0
退職給与引当特定資産	798,893,119	806,324,947	△ 7,431,828
研究充実準備積立金	16,700,000	15,000,000	1,700,000
教育充実準備積立金	720,000,000	720,000,000	0
奨学金引当特定資産	8,000,000	9,000,000	△ 1,000,000
その他の固定資産	5,368,311	5,368,311	0
電話加入権	1,325,117	1,325,117	0
有価証券	4,043,194	4,043,194	0
流動資産	1,462,560,905	1,553,343,897	△ 90,782,992
現金預金	1,428,617,735	1,416,344,284	12,273,451
未収入金	28,079,800	133,774,280	△ 105,694,480
前払金	5,863,370	3,225,333	2,638,037
資産の部合計	26,652,431,410	26,296,465,412	355,965,998
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	798,893,119	806,324,947	△ 7,431,828
退職給与引当金	798,893,119	806,324,947	△ 7,431,828
流動負債	668,170,322	682,405,492	△ 14,235,170
未払金	46,797,334	109,327,302	△ 62,529,968
前受金	418,075,210	399,852,930	18,222,280
預り金	203,297,778	173,225,260	30,072,518
負債の部合計	1,467,063,441	1,488,730,439	△ 21,666,998
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	24,643,396,719	24,444,792,998	198,603,721
第1号基本金	20,105,372,061	20,181,633,076	△ 76,261,015
第2号基本金	3,333,000,000	3,060,000,000	273,000,000
第3号基本金	956,190,658	954,325,922	1,864,736
第4号基本金	248,834,000	248,834,000	0
繰越収支差額	541,971,250	362,941,975	179,029,275
翌年度繰越収支差額	541,971,250	362,941,975	179,029,275
純資産の部合計	25,185,367,969	24,807,734,973	377,632,996
負債及び純資産の部合計	26,652,431,410	26,296,465,412	355,965,998

注記 1. 重要な会計方針

引当金の計上基準

徴収不能引当金

未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

退職給与引当金

退職金の支給に備えるため、期末要支給額 947,000,000 円の100%を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累計額と交付金の累計額との繰入れ調整額を加減した金額を計上している。

2. 重要な会計方針の変更等

該当事項なし。

3. 減価償却額の累計額の合計額 832,785,190 円

4. 徴収不能引当金の合計額 0 円

5. 担保に供されている資産はない。

6. 翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額 0 円

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策
第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

有価証券の時価情報

① 総括表

(単位 円)

	当年度 (2021年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	6,901,342,947	7,040,652,825	139,309,878
(うち満期保有目的の債券)	(6,897,299,753)	(7,002,980,000)	(105,680,247)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	1,400,000,000	1,390,850,000	△ 9,150,000
(うち満期保有目的の債券)	(1,400,000,000)	(1,390,850,000)	(△ 9,150,000)
合 計	8,301,342,947	8,431,502,825	130,159,878
(うち満期保有目的の債券)	(8,297,299,753)	(8,393,830,000)	(96,530,247)
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	8,301,342,947		

② 明細表

(単位 円)

種類	当年度 (2021年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債券	8,297,299,753	8,393,830,000	96,530,247
株式	4,043,194	37,672,825	33,629,631
投資信託	0	0	0
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合 計	8,301,342,947	8,431,502,825	130,159,878
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	8,301,342,947		

3. 財務運営の状況

当法人の過年度の財務運営の状況及び主要財務比率は以下のとおりである。

- (1) 財務運営の状況
 - ・ 資金収支の状況 (P32)
 - ・ 活動区分資金収支の状況 (P33)
 - ・ 事業活動収支の状況 (P34)
 - ・ 貸借対照表 (P35)
- (2) 財務比率表 (P36)
- (3) 財務比率を用いた経営状況の分析 (P37)
- (4) 財産目録 (P38)

過去5年間の財務比較

(単位：千円)

財務運営の状況：資金収支の状況

- 神戸薬科大学 -

科目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
収入の部					
学生生徒等納付金収入	3,255,617	3,297,699	3,207,910	3,224,380	3,141,115
手数料収入	122,360	112,569	104,154	97,983	87,793
寄付金収入	17,352	29,011	27,071	16,918	48,604
補助金収入	273,987	253,124	260,439	244,323	349,268
資産売却収入	800,000	10,000	48,800	0	132,000
付随事業・収益事業収入	39,105	45,324	46,794	33,477	34,970
受取利息・配当金収入	63,087	50,553	49,456	43,380	41,435
雑収入	108,948	141,417	151,692	140,629	44,202
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	432,897	383,810	417,946	399,852	418,075
その他の収入	978,502	136,513	147,531	156,011	202,578
資金収入調整勘定	△	△	△	△	△
前年度繰越支払資金	1,281,371	1,422,631	1,491,655	1,307,320	1,416,344
合計	6,883,451	5,334,898	5,466,920	5,112,555	5,488,455
支出の部					
人件費支出	1,534,959	1,638,755	1,636,190	1,634,433	1,491,513
教育研究経費支出	987,530	952,299	998,967	1,072,953	960,602
管理経費支出	226,867	209,339	308,712	228,017	217,788
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	1,616,393	154,571	385,915	41,477	210,042
設備関係支出	121,935	215,275	161,921	212,040	207,861
資産運用支出	956,403	676,292	686,610	557,334	906,864
その他の支出	67,933	47,240	45,507	62,345	115,186
資金支出調整勘定	△	△	△	△	△
前年度繰越支払資金	1,422,631	1,491,655	1,307,320	1,416,344	1,428,617
合計	6,883,451	5,334,898	5,466,920	5,112,555	5,488,455

科 目		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
教育活動による資金収支	収入					
	学生生徒等納付金収入	3,255,617	3,297,699	3,207,910	3,224,380	3,141,115
	手数料収入	122,360	112,569	104,154	97,983	87,793
	特別寄付金収入	0	4,550	12,350	1,250	1,000
	一般寄付金収入	17,352	24,461	14,721	15,668	47,604
	経常費等補助金収入	262,123	253,124	260,439	215,358	342,297
	付随事業収入	39,105	45,324	46,794	33,477	34,970
	雑収入	108,948	141,417	151,692	140,629	44,202
	教育活動資金収入計	3,805,509	3,879,145	3,798,061	3,728,746	3,698,983
	支出					
	人件費支出	1,534,959	1,638,755	1,636,190	1,634,433	1,491,513
	教育研究経費支出	987,530	952,299	998,967	1,072,953	960,602
	管理経費支出	226,867	209,339	308,712	228,017	217,788
教育活動資金支出計	2,749,356	2,800,395	2,943,870	2,935,405	2,669,904	
差引	1,056,152	1,078,750	854,191	793,341	1,029,079	
調整勘定等	20,138	△ 86,215	66,506	△ 32,349	124,816	
教育活動資金収支差額	1,076,291	992,535	920,697	760,991	1,153,895	
施設整備等活動による資金収支	収入					
	施設設備寄付金収入	0	0	0	0	0
	施設設備補助金収入	11,864	0	0	28,965	6,971
	施設設備売却収入	800,000	10,000	48,800	0	132,000
	第2号基本金引当特定資産取崩収入	500,000	0	0	40,000	27,000
	減価償却引当特定資産取崩収入	400,000	0	0	0	0
	施設整備等活動資金収入計	1,711,864	10,000	48,800	68,965	165,971
	支出					
	施設関係支出	1,616,393	154,571	385,915	41,477	210,042
	設備関係支出	121,935	215,275	161,921	212,040	207,861
	第2号基本金引当特定資産繰入支出	570,000	370,000	370,000	350,000	300,000
	減価償却引当特定資産繰入支出	350,290	300,000	300,055	200,630	600,000
	施設整備等活動資金支出計	2,658,618	1,039,846	1,217,891	804,147	1,317,904
差引	△ 946,754	△ 1,029,846	△ 1,169,091	△ 735,182	△ 1,151,933	
調整勘定等	△ 17,055	18,151	△ 1,515	41,503	△ 66,064	
施設整備等活動資金収支差額	△ 963,809	△ 1,011,695	△ 1,170,606	△ 693,679	△ 1,217,997	
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		112,481	△ 19,160	△ 249,909	67,312	△ 64,101
その他の活動による資金収支	収入					
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	退職給与引当特定資産取崩収入	19,000	27,798	17,303	12,289	7,431
	研究充実準備積立金取崩収入	0	0	0	0	3,300
	奨学金引当特定資産取崩収入	0	0	0	1,000	1,000
	預り金受入収入	0	16,125	15,369	0	30,072
	小計	19,000	43,924	32,673	13,289	41,804
	受取利息・配当金収入	63,087	50,553	49,456	43,380	41,435
	その他の活動資金収入計	82,087	94,477	82,129	56,669	83,239
	支出					
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	第3号基本金引当特定資産繰入支出	11,635	1,292	1,555	1,704	1,864
	退職給与引当特定資産繰入支出	24,478	0	0	0	0
	預り金支払支出	17,195	0	0	8,253	0
	研究充実準備積立金繰入支出	0	5,000	5,000	5,000	5,000
	奨学金引当特定資産繰入支出	0	0	10,000	0	0
	小計	53,309	6,292	16,555	14,958	6,864
借入金等利息支出	0	0	0	0	0	
その他の活動資金支出計	53,309	6,292	16,555	14,958	6,864	
差引	28,778	88,184	65,574	41,711	76,375	
調整勘定等	0	0	0	0	0	
その他の活動資金収支差額	28,778	88,184	65,574	41,711	76,375	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		141,259	69,024	△ 184,334	109,023	12,273
前年度繰越支払資金		1,281,371	1,422,631	1,491,655	1,307,320	1,416,344
翌年度繰越支払資金		1,422,631	1,491,655	1,307,320	1,416,344	1,428,617

財務運営の状況 : 事業活動収支の状況 - 神戸薬科大学 - (単位:千円)

科 目		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,255,617	3,297,699	3,207,910	3,224,380	3,141,115
		手数料	122,360	112,569	104,154	97,983	87,793
		寄付金	17,608	29,011	27,071	16,918	48,604
		経常費等補助金	257,515	253,124	260,439	215,358	324,409
		付随事業収入	39,105	45,324	46,794	33,477	34,970
		雑収入	108,948	141,417	151,692	140,629	44,202
		教育活動収入計	3,801,157	3,879,145	3,798,061	3,728,746	3,681,095
	事業活動支出の部	人件費	1,510,095	1,610,960	1,618,887	1,622,144	1,484,081
		教育研究経費	1,482,597	1,471,890	1,516,572	1,577,878	1,450,441
		管理経費	313,620	298,519	389,947	322,944	311,630
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
		教育活動支出計	3,306,313	3,381,371	3,525,406	3,522,966	3,246,153
	教育活動収支差額		494,843	497,774	272,655	205,779	434,941
	教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	63,087	50,553	49,456	43,380
その他の教育活動外収入			0	0	0	0	0
教育活動外収入計			63,087	50,553	49,456	43,380	41,435
事業活動支出の部		借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額		63,087	50,553	49,456	43,380	41,435	
経常収支差額		557,931	548,327	322,112	249,160	476,377	
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	170,739	2,195	0	0	0
		その他の特別収入	34,796	13,266	11,302	43,654	38,886
		特別収入計	205,536	15,462	11,302	43,654	38,886
	事業活動支出の部	資産処分差額	11,743	9,686	243,591	18,174	137,631
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	11,743	9,686	243,591	18,174	137,631
	特別収支差額		193,792	5,776	△232,289	25,480	△98,744
基本金組入前当年度収支差額		751,723	554,103	89,822	274,640	377,632	
基本金組入額合計		△1,060,487	△582,666	△324,927	△405,379	△198,603	
当年度収支差額		△308,763	△28,562	△235,105	△130,738	179,029	
前年度繰越収支差額		1,066,111	757,347	728,785	493,680	362,941	
基本金取崩額		0	0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額		757,347	728,785	493,680	362,941	541,971	

財務運営の状況 : 貸借対照表 - 神戸薬科大学 -

資産の部					
科 目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
固定資産 (a)	23,846,332	24,251,678	24,588,893	24,743,121	25,189,870
有形固定資産	13,123,961	12,880,813	12,548,721	12,198,904	11,777,520
うち、土地	1,144,767	1,136,963	867,626	867,626	700,025
うち、建物	9,676,931	9,557,836	9,547,926	9,218,065	9,041,940
うち、構築物	305,307	292,319	332,992	314,115	299,664
うち、教育研究用機器備品	853,742	771,748	687,493	698,755	691,903
特定資産	10,717,002	11,365,496	12,034,803	12,538,849	13,406,982
うち、減価償却引当特定資産	5,924,679	6,224,679	6,524,734	6,725,364	7,325,364
その他の固定資産	5,368	5,368	5,368	5,368	5,368
流動資産 (b)	1,528,033	1,617,716	1,415,262	1,553,343	1,462,560
うち、現金預金	1,422,631	1,491,655	1,307,320	1,416,344	1,428,617
うち、有価証券	0	0	0	0	0
合計 (a+b)	25,374,366	25,869,395	26,004,156	26,296,465	26,652,431
減価償却額の累計額の合計額	6,799,251	7,253,772	7,539,237	7,982,728	8,327,851
負債及び純資産の部					
科 目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
負債 (c)	1,485,198	1,426,124	1,471,062	1,488,730	1,467,063
固定負債	863,712	835,917	818,614	806,324	798,893
うち、長期借入金	0	0	0	0	0
うち、学校債	0	0	0	0	0
うち、退職給与引当金	863,712	835,917	818,614	806,324	798,893
流動負債	621,485	590,206	652,448	682,405	668,170
うち、前受金	432,897	383,810	417,946	399,852	418,075
純資産 (d)	23,889,167	24,443,271	24,533,094	24,807,734	25,185,367
基本 金	23,131,819	23,714,485	24,039,413	24,444,792	24,643,396
第1号基本金	19,923,212	20,134,586	20,087,958	20,181,633	20,105,372
第2号基本金	2,010,000	2,380,000	2,750,000	3,060,000	3,333,000
第3号基本金	949,772	951,065	952,621	954,325	956,190
第4号基本金	248,834	248,834	248,834	248,834	248,834
繰越収支差額	757,347	728,785	493,680	362,941	541,971
翌年度繰越収支差額	757,347	728,785	483,680	362,941	541,971
合計 (c+d)	25,374,366	25,869,395	26,004,156	26,296,465	26,652,431
基本金未組入額	0	0	0	0	0

区 分			2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
貸借対照表関係比率	1	固定資産構成比率	94.0	93.7	94.6	94.1	94.5
	2	有形固定資産構成比率	51.7	49.8	48.3	46.4	44.2
	3	特定資産構成比率	42.2	43.9	46.3	47.7	50.3
	4	流動資産構成比率	6.0	6.3	5.4	5.9	5.5
	5	固定負債構成比率	3.4	3.2	3.1	3.1	3.0
	6	流動負債構成比率	2.4	2.3	2.5	2.6	2.5
	7	内部留保資産比率	42.0	44.2	45.7	47.4	50.2
	8	運用資産余裕比率	364.8	378.1	352.7	391.1	437.2
	9	純資産構成比率	94.1	94.5	94.3	94.3	94.5
	10	繰越収支差額構成比率	3.0	2.8	1.9	1.4	2.0
	11	固定比率	99.8	99.2	100.2	99.7	100
	12	固定長期適合率	96.3	95.9	97.0	96.6	96.9
	13	流動比率	245.9	274.1	216.9	227.6	218.9
	14	総負債比率	5.9	5.5	5.7	5.7	5.5
	15	負債比率	6.2	5.8	6.0	6.0	5.8
	16	前受金保有率	328.6	388.6	312.8	354.2	341.7
	17	退職給与引当特定資産保有率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	18	基本金比率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	19	減価償却比率	38.3	40.4	41.5	43.6	45.2
	20	積立率	114.3	112.6	110.7	115.7	110.6
事業活動収支計算書関係比率	1	人件費比率	39.1	41.0	42.1	43.0	39.9
	2	人件費依存率	46.4	48.9	50.5	50.3	47.2
	3	教育研究経費比率	38.4	37.5	39.4	41.8	39.0
	4	管理経費比率	8.1	7.6	10.1	8.6	8.4
	5	借入金等利息比率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	事業活動収支差額比率	18.5	14.0	2.3	7.2	10.0
	7	基本金組入後収支比率	110.3	100.8	106.7	103.8	95.0
	8	学生生徒等納付金比率	84.2	83.9	83.4	85.5	84.4
	9	寄付金比率	0.4	0.7	0.7	0.7	1.7
	10	経常寄付金比率	0.5	0.7	0.7	0.4	1.3
	11	補助金比率	6.7	6.4	6.7	5.6	9.3
	12	経常補助金比率	6.7	6.4	6.8	5.7	8.7
	13	基本金組入率	26.1	14.8	8.4	10.6	5.3
	14	減価償却額比率	17.6	18.0	17.0	17.0	18.0
	15	経常収支差額比率	14.4	14.0	8.4	6.6	12.8
	16	教育活動収支差額比率	13.0	12.8	7.2	5.5	11.8
活動区分資金収支計算書関係比率							
1	教育活動資金収支差額比率		28.3	25.6	24.2	20.4	31.2

(注) 経常収入＝教育活動収入計＋教育活動外収入計
 経常支出＝教育活動支出計＋教育活動外支出計
 教育活動資金収支差額＝教育活動資金収入計－教育活動資金支出計＋教育活動調整勘定等
 運用資産＝特定資産＋有価証券（固定資産）＋有価証券（流動資産）＋現金預金
 外部負債＝借入金＋学校債＋未払金＋手形債務
 要積立額＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋第2号基本金＋第3号基本金

財務比率を用いた経営分析

(単位：%)

区分		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	薬系単科大学平均 (2019年度)	
貸 借 対 照 表	① 純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	94.1	94.5	94.3	94.3	94.5	92.7
	② 流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	245.9	274.1	216.9	227.6	218.9	249.1
	③ 負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	6.2	5.8	6.0	6.0	5.8	7.9
	④ 基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—
事 業 活 動 収 支 関 係	⑤ 人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	39.1	41.0	42.1	43.0	39.9	40.8
	⑥ 教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	38.4	37.5	39.4	41.8	39.0	39.3
	⑦ 管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	8.1	7.6	10.1	8.6	8.4	9.0
	⑧ 事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	18.5	14.0	2.3	7.2	10.0	9.6
	⑨ 学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	84.2	83.9	83.4	85.5	84.4	83.9

(注) 経常収入＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

- ① 純資産構成比率は総負債及び純資産の合計額のうち、純資産の占める割合を示す比率であり、高いほうが財政的に安定しているとされている。本学は薬系単科大学平均値を上回り財政的に安定しているといえる。
- ② 流動比率は流動負債に対する流動資産の割合を示す比率で、短期的な支払い能力を判断する指標である。本学は薬系単科大学平均値をやや下回るが問題ない水準である。
- ③ 負債比率は純資産に対する総負債の割合を示す比率であり、100%以下かつ低いほうがよいとされている。本学は薬系単科大学平均値を下回る水準である。
- ④ 基本金比率は基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合を示す比率で、100%が望ましいとされている。本学は過去5年間100%である。
- ⑤ 人件費比率は人件費の経常収入に対する割合を示す比率であり、低い方がよいとされている。本学は薬学教育6年制に移行後教員の増員により人件費が増加してきたため比率は増加傾向にあったが、教員数は2018年度でピークを打ち、人件費抑制により今年度は薬系単科大学平均値を下回る水準に改善した。
- ⑥ 教育研究経費比率は教育研究経費の経常収入に対する割合を示す比率である。教育研究経費は学校法人の本業である教育研究活動の維持・発展を支える重要な費用であり、高いほうが望ましいとされている。本学は薬系単科大学平均値とほぼ同水準である。
- ⑦ 管理経費比率は管理経費の経常収入における割合を示す比率である。管理経費は教育活動以外の目的による経費であるので、低いほどよいとされている。本学は薬系単科大学平均値を下回る水準である。
- ⑧ 事業活動収支差額比率は事業活動収入のうち基本金組入前の当年度収支差額が占める割合を示す比率であり、プラスかつ高いほうがよいとされている。本学は過去5年間プラスにあり、人件費の抑制等により前年度対比改善している。
- ⑨ 学生生徒等納付金比率は学生生徒等納付金の経常収入に占める割合を示す比率である。この収入は学校法人の経常収入のなかで最大の比重を占めており安定的に推移することが望ましい。本学は過去5年間概ね安定的に推移しており、前年度対比でも改善はしているが、薬系単科大学平均値を上回っており引き続き収入源の多様化が課題である。

財産目録

- 神戸薬科大学 -

(単位：千円)

科 目	2016 年 度	2017 年 度	2018 年 度	2019 年 度	2020 年 度
固定資産	23,846,332	24,251,678	24,588,893	24,743,121	25,189,870
有形固定資産	13,123,961	12,880,813	12,548,721	12,198,904	11,777,520
土地	1,144,767	1,136,963	867,626	867,626	700,025
建物	9,676,931	9,557,836	9,547,926	9,218,065	9,041,940
構築物	305,307	292,319	332,992	314,115	299,664
教育研究用機器備品	853,742	771,748	687,493	698,755	691,903
管理用機器備品	101,672	85,975	78,072	72,944	81,163
図書	1,028,572	1,034,101	1,033,114	1,023,497	962,074
車両	0	1,870	1,496	1,122	748
建設仮勘定	12,967	0	0	2,777	0
特定資産	10,717,002	11,365,496	12,034,803	12,538,849	13,406,982
第2号基本金引当特定資産(教育環境整備資金)	1,100,000	1,400,000	1,700,000	2,000,000	2,300,000
〃(大型機器充実資金)	60,000	80,000	100,000	60,000	33,000
〃(施設設備整備資金)	850,000	900,000	950,000	1,000,000	1,000,000
第3号基本金引当特定資産(厚生資金)	226,222	226,334	226,709	227,233	227,916
〃(奨学資金)	454,104	454,104	454,104	454,104	454,104
〃(榎並奨学・報奨基金)	124,709	125,224	125,739	126,254	126,769
〃(記念事業準備資金)	144,735	145,401	146,067	146,733	147,399
減価償却引当特定資産	5,924,679	6,224,679	6,524,734	6,725,364	7,325,364
第4号基本金引当特定資産	248,834	248,834	248,834	248,834	248,834
退職給与引当特定資産	863,716	835,917	818,614	806,324	798,893
教育充実準備積立金	720,000	720,000	720,000	720,000	720,000
研究充実準備積立金	0	5,000	10,000	15,000	16,700
奨学金特定資産積立金	0	0	10,000	9,000	8,000
その他の固定資産	5,368	5,368	5,368	5,368	5,368
電話加入権	1,325	1,325	1,325	1,325	1,325
有価証券	4,043	4,043	4,043	4,043	4,043
流動資産	1,528,033	1,617,716	1,415,262	1,553,343	1,462,560
現金預金	1,422,631	1,491,655	1,307,320	1,416,344	1,428,617
未収入金	92,589	114,858	102,721	133,774	28,079
前払金	12,812	11,202	5,220	3,225	5,863
資産の部合計	25,374,366	25,869,395	26,004,156	26,296,465	26,652,431
固定負債	863,712	835,917	818,614	806,324	798,893
長期借入金	0	0	0	0	0
退職給与引当金	863,712	835,917	818,614	806,324	798,893
流動負債	621,485	590,206	652,448	682,405	668,170
短期借入金	0	0	0	0	0
未払金	38,604	40,287	53,022	109,327	46,797
前受金	432,897	383,810	417,946	399,852	418,075
預り金	149,983	166,108	181,478	173,225	203,297
負債の部合計	1,485,198	1,426,124	1,471,062	1,488,730	1,467,063
差引純資産額	23,889,167	24,443,271	24,533,094	24,807,734	25,185,367

4. 経営上の成果と課題、今後の対応方策

(1) 経営上の成果と課題

- ・本学は学生生徒等納付金に大きく依存した収入構造になっているため、学生生徒等納付金以外の収入源の多様化が中長期的な課題であり、2020年度は、収入源の多様化を図るため、補助金の積極的な獲得、基金の創設・寄付金事業の充実に努めた結果、補助金収入、寄付金収入は前年度を大幅に上回り、経常収入のうち学生生徒等納付金の占める割合（*）も2019年度の85.5%から2020年度は84.4%へ改善した。然しながら薬系単科大学平均値の83.9%を上回っており、引き続き収入源の多様化への取り組みが必要である。
- ・キャンパス整備計画の集大成である新2・3号館（仮称）建替えを計画しており、所要資金の総額が数十億円となる見込みであることから、第2号基本金引当特定資産を既に積み立てている30億円に加え、2020年度から2022年度にかけて、毎年3億円毎、計9億円を積み増しする方針のもと2020年度は予定通り3億円の積み増しを実施した。また、新2・3号館（仮称）建替えにより数十億円という多額の資金投入を予定しており、今後の財政基盤の強化を図るため上記の収入の多様化に加え、経常経費を含めた支出の見直しへの取り組みが必要と考えている。

(2) 今後の対応方策

- ・2021年度以降についても、学生生徒等納付金以外の収入源の多様化を図るため、積極的な外部資金の獲得、関連部署が連携した積極的な補助金の獲得、寄付金事業の充実に図っていく方針である。
- ・新2・3号館（仮称）建替えのための所要資金確保のため、2021年度も計画通り第2号基本金引当特定資産を3億円積み増しする予定である。また、経常経費を含めた支出の見直しについても2021年度事業計画に織り込み取り組む方針である。

（*）学生生徒等納金比率（学生生徒等納金／経常収入）・・・P36 参照